

野田大塊翁東拓の
一票を投ずー十五日午後三時

鐵道測量班卅日間の難行苦行(其二)

名も勇ましい赴戰艦は新興艦にあつて線路は此艦を越える爲めには海抜四千九百尺の高地を通過し五十六箇の隧道を設ける其最長のものは延長三十六キーンにも達する此赴戰艦附近は此惠間中最も四邊の風物を異にした處で威地院と云ふ小

●部落が殆んど山上

田畑は思かほらしい道さへもなぶ部落を見付けて食分求めても馬鈴薯が唯住民の常食なのだ其れより外に手に入れ様が無い成興を出る時障め其用意の二石八分餘りの米を買込めた爲が切れてしまつて赴戰艦兩

●山間僻地の事

立つたのは、兩級の候補者が、根柢の

點となつた。併し肝腎の御本人は東京にござるのだから恨つとも云はれやしない。二歳では古坂君が最高點だと思はれて居ると、河村君が最高點で出た矢張り、ロツクの御蔭だらう。一番氣の毒なのは横田君で横鎗を入れた志熊君と同點數であつたが惜しいかな。

君の三十一歳然かもそれが最高點、御本人の満足は左ることであらう。次で起る問題は役員選舉だ。此處暫くお狼と致さう。

當選の人が喜しい程落選の人の情も御同席に附へなけり此世は笑ふて暮せ笑ふ門に。

福來る。

大國古前郡古前村字サンケ別

現に去る十日三名の住民暗殺され一日夜も亦五名暗殺され五名負傷大恐慌を來せし(札幌電)

●新義州民團事

時社會の耳目を聳動せし新義州事件の内幕を詳述せし新義州民團の事

井戸に投身す 京城西大興炭礦中り

一、目名物商韓德淳方雇人李亨妻の妻金姓女(二)は十四日夜屋內井戸に投身したるも家人に發見せ

原内生活難の爲め常に夫婦喧嘩を其妻の李姓女より男として雇ひ妻を罵られたるを苦にしたる結果りて箱形庭にて目下加療中

殊に洋風の應接間などには盛

鉢がよく調和するやうである、京
 城にも明治町邊に盛花の鉢屋が出来
 て近來なかく盛んな流行に相な
 ず。密伏中御用 仁川牛角里金聖玉方
 並相風へは去る二日仁川寺町井上
 庵次方に忍び入り金子入りの金箱一
 箇と銀細腰中時計一箇を盗取し仁川
 府初燃祭を除島廳方に潜伏し知らぬ
 處の半兵衛を奪ひ込み居る處を仁川

あ
か
り
言

赤毛

大坂堂島
同心齋橋
商橋盛
商盛
大
堂
分
店

戰の後||死んだ兒の齡||何

すつたのもんだのと騒いだつて「時」
の力程恐ろしいものはない、十五日
午前九時から行はれた「評議員選挙」も
午後四時會議所の

■大時計カチン と鳴ると茲
に金一二級共千秋樂を告ぐることに
なつた今のお金進まきかと思ひ大々

御年の若い爲に落選せしが開票
に 信じて居た

■間際迄常選と
だけに皆んな同憎せぬ者はなかつた
好漢情むべし兵法を過てり、一級の
方に西村君と岡君と云ふ大敵の出た
ことは實に思ひがけぬことで誰云ひ
合されど油斷すな振る子をやつたけ

新吉と偽名して

國に入賀し、同日は、龍山彌生阿科、屋一樂の仲居藤某女を使はし七に入就せし翌日に、中村方へ湯子太郎と偽名



午後五時

らへて岩や砂礫をも用ゐるので

懸賞募集
 新年文藝
 課題
 ▲短歌 新
 ▲和歌 密國祝
 ▲俳句 門松
 一人一句歌
 ▲川柳 かるた

質 ○ 完全なる倉庫の設備

[illegible]

